

受講番号 19049 学校名 高知ろう学校 氏名 西村 茂

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 高等部2年生 生徒数 1名
 科目名 英語 I 単位数(授業時数) 2 時間 使用教科書名 All Aboard! English I

クラスの様子・特徴

本校の生徒は当然、「聞くこと」「話すこと」が苦手な生徒が大多数である。しかし、何事にも真面目に取り組み、英語が分かりたいという意欲が感じられる。

問題の確定

英語を学習すること共に「生きる力」としてのコミュニケーション力をつけること。

予備調査



A 授業の観察

情報が聴覚を通して入ることが困難なため、授業で理解できる量が少ない。学習内容の定着は興味・関心のあるものでなければきわめて困難な環境にある。

B 生徒による授業評価

生徒全員を対象としたアンケートではほぼ全員の生徒が英語に興味があり、外国の方とのコミュニケーションを望んでいる。

C 学力データ

語彙を増やすために何度も同じ語を繰り返し学習しても定着率が良くない。日常見かける語句もその意味が理解できていない場合がある。

リサーチ・クエスチョン



聴覚に障害を持つ生徒が楽しく表現力を身につけるためにはどのような指導の工夫が望ましいか。

仮説・実践・検証



仮説1



実践1



検証1

学習した単語や文を繰り返し音読練習することで、定着が図れ語彙が増えるのではないだろうか。明瞭でなくとも発声を重視する。

生徒にとって興味のある語から入り、その後に関連する語を引き出していく。授業の始めに前回学習した単語を何回か繰り返し発音させる。発音が不明瞭な場合でも、前向きな姿勢に対しては必ず誉める。指導案どおりに進めず、生徒の反応をみながら常に形成的評価を試み、授業内容と生徒の心理のマッチングを心がける。

音声の明瞭度には当然問題はあるが、声を出すことに積極的に取り組むことができ、基本的な語の定着が見られた。特に生徒の興味・関心のある分野の語彙については顕著であった。

仮説2



実践2



検証2

場面を設定し、学習した語彙を使い自分自身の考えや思いを英語で表現できれば、書くことにも積極的に取り組めるのではないだろうか。

ノートやワークシートを使って基本的な文型(短文)を用い、設定された場面での自分の考えを表現させる。仮説1の場合と同様、状況に応じて形成的評価を試み、興味を持てる状態の維持(楽しいもの・望むもの)に心がける。

興味のある語・日常見かける語を使つての表現なのでスムーズに実施でき何度も繰り返すうちにノートを見ないでの表現も可能になった。しかし、定着にはかなり困難な兆候が見られた。

仮説3



実践3



検証3

外国への手紙の書き方・出し方を学習すれば、一人で手紙やクリスマスカードを出せるようになるのではないだろうか。

写真で外国の家族を紹介する。教師自身に届いたクリスマスカード等を紹介し、生徒にも手紙を書かせる。最初は日本語で書かせる。その後、仮説2で学習した文型を活用して英語の文に書き換えさせる。生徒の書いた文をできる限り訂正しないようにする。

自分のこと・家族のこと・高知のこと等を簡単に短い文で手紙として仕上げることができた。近くの郵便局から初めて外国に手紙を出すことができた。

研究の成果



学ぶ側の視点に立って授業計画を立て指導案を作成することを基本にこれまでの取り組みを行ってきた。同時に高校生としてのプライドを大切にすることを心がけた。「聴覚に障害があるから英語は必要ではない」ではなくて「聴覚に障害があるからこそ英語を学ぶことによってコミュニケーションの大切さ」も学習できる。コミュニケーションの方法は書くことによっても十分に可能である。英語を学習することで生徒は日本語・英語・手話、3つの言葉を使えるようになる。

今後の授業改善の課題

教える側の視点では仮説を立てたことで、それに向けて試行錯誤しながら取り組むことができたと感じている。ろう学校に赴任して本当の意味での英語教育に出会えたことを有難く思う。何事にも真面目に取り組み、英語が分かりたいと望む生徒たちに個別授業のメリットを生かし、楽しく学ぶ意欲の湧く授業をさらに工夫し、実践していくことがこれからの課題である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-823-1640

電子メール

#REF!